

専修パワーズ11人 日本代表で活躍

豪州メルボルンで8月に開催されたオーストラリアンフットボール世界大会で、愛好会「専修パワーズ」から選手11人が日本代表に選ばれ、世界

オーストラリアンフットボール

を相手に活躍した。日本代表選手は29人。このうち専大から選ばれたのは、村山大斗さ



日本代表として世界大会を戦った専修パワーズのメンバー8月、メルボルン

ども認められている。3年に1度の世界大会には今大会18カ国が参戦。日本代表はインド、パキスタン、ドイツに勝利、第2グループのセミアイナルに進んだがクロアチア、中国に連敗し、最終成績は14位だった。悔しい結果となったが主将の宇田川さんは「世界のパワーと技を体感できた」と振り返る。クロアチア戦でタックルを決めた、この試合のMVPに選ばれた村山さんは「3週間オーストラリアンフットボール漬けの生活で充実していた」と笑顔を見せた。国内では大学3チー

ム、社会人4チームが合同でリーグ戦を展開している。専修パワーズは今季、優勝常連チームに勝利。日本代表に選出された人数も一番多く、勢いに乗っている。今春、豪州に留学した中川さんは「国内の競技人口は少ないけれど、そのぶん頂点に立てるチャンスがある」と、競技への参加を呼びかけている。

キャリアデザインPBLプログラム
キャリアデザインセンターが実施する「キャリアデザインPBLプログラム」の成果発表会、最終報告会が11、12月に開催される。

【専大ベンチャービジネスコンテスト・プレゼン大会】
▽11月18日(土) 12時30分▽生田キャンパス202教室
【課題解決型インターンシップ成果発表会】
▽12月2日(土) 12時50分▽生田キャンパス201教室ほか
【専修リーダーシップ開発プログラム最終報告会】
▽12月7日(木) 16時45分▽生田キャンパス202教室
※観覧希望の方はメール(career@acc.senshu-u.ac.jp)で5日前までに申し込みください。

小中高生と合同練習 バドミントン部 初の柏崎合宿

バドミントン部が新潟県柏崎市で行った男女合同の合宿に、地元の小中高生が参加し、一緒に練習に励んだ。



専大バドミントン部一行は男女部員と監督、コーチら約40人。柏崎市での合宿は初めてで、新潟県バドミントン協会に専大卒業生がいたことから実現した。8月16日から22日まで行われた市総合体育館での練習に、市内の高校生、中学生と、クラブチームの子どもたち延べ103人が参加。一緒に打ち込みをした。専大コーチの指導を受けた。参加した中学生は「大学生と一緒に練習できたのは貴重な体験だ」と話していた。

女子主将の吉森朱里さん(商4)は「コート数が12面と多く、体育館は設備が整っていた。練習に集中できた」と話し、高橋秀一監督(昭46経済)は「柏崎のクラブチームの子どもたちは意欲的。部員たちの刺激になったのでは」と振り返った。

女子のバドミントン部は今夏から、本学の教育交流提携校・向上高校(神奈川県伊勢原市)の生徒に指導を行っている。また、2014年に鹿児島県奄美市で合宿中に海岸清掃を行うなど、地域貢献活動も積極的にやっている。

新潟県関川村に移住し「農民」 英文ガイド発行 川崎哲也さん・パトリアさん夫妻

自然と寄り添い生きる

新潟県北部の関川村。清流が流れ、冬には雪に包まれる村で「農民」として生きる校友がいる。川崎哲也さん(39歳、平12文)。アメリカ出身の元専大留學生の妻パトリアさん(39)と4人の子ともとともに暮らす。一家の、自然に寄り添った生き方とは――。



「自然の摂理に従って生きれば、人間は幸せだと思う」。3年で退職。地元新潟の県立農業大で学び直したり、農業法人で働いたりした後、関川村で有機農業を実践している人と出会い、2009年、まだ雪が残る春浅い日、ここに移住した。

静かに語る川崎さんが「農を意識したのは大学卒業後、入国管理局に勤めていた時だ。英米文学科(当時)で学んだ得意の英語を生かそうと決めた就職先だったが、不法滞在で強制退去させられる人々と接するうちに、なぜこの人たちを救えないのか苦悩するようになった。そして、その頃

川村で有機農業を実践している人と出会い、2009年、まだ雪が残る春浅い日、ここに移住した。「職業ではなく、農民は生き方です」米や豆、野菜を作る。集落の農作業や行事の手伝い。英会話講師としても働き、雨や雪の日には保存食の加工や読書で過ごす。さらに9歳から2歳の1男3女の子育て。川崎さん自身がリフォームした築40年超の家にはぎやかな声がいっぱい響いている。



パトリアさんが編集、川崎さんも執筆した『Sparkle』

「既存の価値観にとらわれず、自分の心に素直に従ってほしい。迷ったら関川村に来てほしい。雨上がりのきらめく緑に包まれて、二人は後輩たちに語りかけた。『Sparkle』は希望寄付金500円。問い合わせはseki@kawa.sparkle@gmail.com

だ。今春にはクラウドファンディングで資金を集め、第2号を出した。取材・執筆は村内の中学生で、パトリアさんが訳したが、なかには英訳も挑戦した生徒もいる。「こんなに濃い日本文化が、今も関川にあるということ、海外の人に知ってもらいたくて英語のガイドブックにした」と語る。

「この場所が好き」と言う川崎さん一家。自宅の正面に神社があり、清水が湧き出ている。大に留学した。川崎さんが所属していた少林拳法部に参加し、二人は出会う。留学終了後は京都の大学で漫画を学んだ。

数年前に家族で生田キャンパスを再訪したのは楽しい思い出だ。「今の学生は優しい人が多い気がする。これからは優しさとか信頼とか、目に見えないものが大事な社会になってほしい」と川崎さん。

外国語のススメ
外国語教育研究室
ホノルル市内にあるカメハメハ大王像

法学部教授 榎透
「ekahi, elua, ekolu」左に掲げた単語は何を意味するものか、皆さんはご存じだろうか。正解は、米国ハワイ州の公用語であるハワイ語の「1、2、3」である。ハワイ語といえば、「こんにちは」を意味するAloha、フラダンスでおなじみのhulaなどは、日本でもよく知られているが、知られていない語は多い。それでも、waiwai(ワイワイ)、ke'oke'o(ケオケオ)、humuhumunukunukuapua'a(フムフムヌクヌクアプアア)などを聞くと、意味を知らなくても、南国の楽しい気分が浸れる。ハワイは、もともとハワイ王国という独立国家であったが、1898年にアメリカに併合された。今では英語が日常的に使われる。その一方で、現在のハワイでハワイ語を使わなければならない機会はずいぶん多い。ネイティブ・ハワイアンも少ないようだから、ハワイ語は消滅の危機に瀕している言語といえるかもしれない。もっとも、今でもハワイ語にふれることはできる。ハワイ大学ロー・スクールのあるMānoa(マノア)は「広い」という意味であるし、その隣の小学校であるNoelani(ノエラニ)やHokulani(ホクラニ)のlani(ラニ)は空を、noeは霧、hokuは星を意味する。今や通りの名であるKamehameha(カメハメハ)といった昔の王の名も、ハワイ語の響きを感じさせる。ホノルル散策の際には、ハワイの人々に息づくハワイ語の響きを堪能するのも楽しみの一つである。(担当は憲法統治機構論) ※短縮版：全文はCALL教室ホームページで